

京交山岳部報

No. 416

' 87 6月号

[第1649回例会]

田畑山(今庄)と桐ヶ平(大野)

日 時 6月4日(木)~5日(金) 集合 壬生 AM7:00
コ ー ス 途中越一海津一北国街道一鉢伏山△761.8一宇津尾一田畑山△648.9一
武生一池田町水海一美濃呉林道終点幕営。桐ヶ平△1218.2をピストンの
上北陸武生一敦賀一R161号を経て帰洛
担 当 者 OB 伊藤潤治(TEL 463-4936)

[第1650回例会]

天狗城(谷汲)と明神クラソ(能郷白山)

日 時 6月11日(木)~12日(金) 集合 三条京阪南口 AM7:00
コ ー ス 名神羽島一高島町一美山町塩後一天狗城△720m一大黒山△524一谷合
一神崎一白岩幕営。△814.8(白岩)一町村界一明神クラソ△1023.1一
駐車点一往路帰洛
担 当 者 OB 伊藤潤治(TEL 463-4936)

[第1651回例会]

今淵ヶ岳

日 時 6月6日(土)~7日(日) 集合 壬生交通局 PM8:00
コ ー ス 京都東IC一羽島IC一奥板山 テント泊
テント…今淵ヶ岳△1048…往路下山
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 391-2445)
備 考 申込〆切日 6月10日 費用 3,000円
その他、夜、ゆっくり京都を出て、テントで楽しくやってから、朝のんびり登って、ゆっくり京都へ帰ってきたい。是非どうぞ。

[第1652回例会] 十二支の山

赤 兎 山 △1,628m

日 時 6月20日(土)~21日(日) 集合 壬生 PM 1:00
コ ー ス 京都東I.C-福井I.C-大野-勝原-鳩ヶ湯-原の山キャンプ場-
たんどり谷-奥の塚峠-赤兎山頂上-往略下山-京都
担 当 者 高速 大倉寛治郎(TEL 889)
備 考 申込〆切日 6月15日 費用 約5,000円
その他 ※ 登山後、温泉で入浴します。
※ 食料は大野で購入します。
※ テント泊ですのでシラフ等わすれずに、ワイワイガヤガヤ!! 星の下楽しい一日をすごしましょう。

今月の集会

インドア「読 図 (1)」 大倉寛治郎
6月10日(水) PM 6:30 厚生会館4F大教室

7月の集会

インドア「読 図 (2)」 吉田 武
7月9日(木) PM 6:30 厚生会館4F大教室

企画運営委員会

6月22日(月) PM 6:00 厚生会館4F大教室



藪山のすすめ

岡 田 茂 久

「奥美濃の山に行きまへんか、新緑がきれいですよ」。「奥美濃ですか、登山道はないんですよ」。「頂上まではまず無理ですな」。「いやー、藪は苦手でも、遠慮しときますわ」。洗い山行を得意とするといわれる当山岳部でも藪山アレルギーがあり、こんな会話が交わされることが多々ある。

登山とはいったい何だろう。全ての生物は糧の為に身体を使う。人だけが非生産的な種々の行動をする。人間以外の動物世界にはいわゆる登山という行為はない。登山は人の非生産的な行為の中でも際たるものであろう。

人が糧以外に身体を使う目的の一つに快樂の追求がある。快樂には身体的なものと精神的なものがあるが、登山は身体的には苦痛がから精神的な快樂を求めるものであろう。しかしそれだけでは無いように思う。ある人は「そこに山があるからだ」とも言った。

我々が登山に求める目的と期待する楽しさには、美しい自然に親しめる。素晴らしい景色が楽しめる。わずらわしい世間から逃避できるという人。健康のためと人それぞれで、なかには一汗かいた後の頂上一杯が楽しみという人があるかもしれない。が、いずれにしても登山は山に登るといふ単純な行為であるのに、なぜこうまで我々の心を引き付けるのであろう。

結局それは思うにだれしもが意識下に持つ征服欲を満足させてくれる、というところにあるのではないだろうか。そして登山における征服欲は、ときとして頂上を極めることが出来なかったとしても、一所懸命に頑張った結果としての満足感で癒やすことが出来るのが不思議なところで、また、そうあるべきものであるとも思う。

奥美濃などの藪山の登山の魅力はこのあたりあるといえるのではないだろうか。アルプスや近郊のガイドブックにある山と違い、快適な稜線歩きや気持ちの良い草原はもとより、根幹である登山道といえるようなものはまず期待できない。あるのは消えかけた植林道と獣道があればいいほう。(もっとも最近では登山のアプローチは稼げるがなんとも無味乾燥な、功罪なかばする林道が相当に山奥まで入り込んではいるが)。道標などはあるべきもなく、記録などにみる〇時〇分**谷出合というのは自分でそう判断しただけで、もとより「ここはどこですか」なんてたずねる人も通らない。頼りは地図と磁石と自分の山勘だけ。30m程の滝を高巻きするのに1時間。獣すら通るのを拒むような藪を擦り傷だらけで、やっとこさ頂上らしき処に登り切ったら、はるか向こうにまが高い処が見える。稜線は深い雪に痛めつけられ鉄筋入りと化した灌木の逆茂木、100m行くに30分かかることもめずらしくない。ようやくたどりついた頂きは展望も望めぬ深い藪、その中から三角点の白い標石が迎えてくれる。この標石に人の手が触れたのは何年ぶりだろうか。この瞬間とえよりのない感覚が身体を掛け抜ける。この満足感!充足感!。時として先人の登頂メモがウイスキーの小瓶などに、誇らしげに入れてあったりして会ったこともないのに懐かしい。

下山が又むずかしい。登りよりむずかしいともいえる。登りに付けたナタ目やテープが頼りだがこれすらたどるのはなま易しいことではない。まして違うルートを下るともなれば、一瞬たりといえど気が抜けない。小さな尾根一つ間違っても大変で、陽のある内に帰れないこともまれでは無い。

ベースのテントが見えたときの安堵感。ほっと一息ついた成し遂げた後の満足感は頂上でのそれにも増したものである。これが地図が無くても登れる山との違いで、「こう登ってここを下ろう」山行き前のルートの検討も、下山後のルートの確認も、他の山行きとは一と味違った藪山の楽しみの一つでもある。

いろいろとご託を並べたが登山に理屈はいらない。ぜひ一度あなたも奥美濃の山に付き合ってください。きっと新しい登山の楽しみを見つけることが出来ると思いますよ。

京交山岳部報取扱要綱について

昭和62年5月20日の企画運営委員会において、京交山岳部報取扱要綱が制定されました。詳細については、7月号でお知らせします。

吼子尾山（城の丸）

高砂峰（高砂山・サカズキ山）

伊藤潤治

4月12日は、家事都合により俄かに老ノ坂を越えてかねての存念を、晴らすことになった。前者は「蹴渉譜、17号」に、クズの花が咲いているのが葛尾山らしく、道が不明瞭とするされてあって、これはええ蔵山らしいぞ、と地形図に④をつけた。そのご吼子尾（クツオ）が正しい表示であったと、お知らせいただいて、いよいよ心急ぐようになった。

後者は、日本山嶽志に、高妙峰、丹波国氷上郡ノ西方ニアリ、佐治村ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山輝石安山岩ヨリ成ルモノノ如シ。標高凡千三百尺。とあるのが、丹波志、氷上郡志、青垣町誌に詳細な、Kさんの慧眼により高砂峰となった。つまり女へんに高でなくて、石へんの高であると、誤植を断定されたのである。これまた登欲の種になったのである。9時すぎに出発して養老二年開基と伝えられるイボとり薬師こと吼子尾山胎蔵寺には正午着。駐車のお願いと登路を尋ねていく。夫人がおられて、山はと指差してあの赤旗が頂上で、この元旦には200余名の町民登山があり、草駄天は40分かかるぬ、よい道がついていると教えて下さった。お寺の庭は真紅と桃色に咲き分けた椿の花がきれいで、しばし見とれて歩きだす、すぐ左に東向きの小さいお宮、こちら向きの碑面は、壱萬円貯蓄記念が刻まれている。次に方便水、これがイボとりなと靈水。右手の石垣は、胎蔵寺の27年前までの所在地か、旧図の寺院記号は、200mと280mに付されている。200m台地、もと寺領の田畑地ときいたが、それより人工林に入るそこに、元旦登山を物語る「城の丸」登山口標があり、矢印の指示が続く。小谷の合流をまたぎ東南尾根350m、松落葉の道は前峰へ、そして平らで清いお庭的な尾根は、左の美林から身を切るような風、このきびしい寒風が尾根を清く拭いつくしているようだ。頂上へ150m標のあとの急登には、手強そうな露岩が並びなかなかの風情をそえ、雑木林に上ると、大空間とともに■△519.3mがあった。これが200余名もの人たちが、元旦を祝って打ち寛いだあとか、と感嘆するばかりの眺めであった。まぶしくて、のどかな見晴らし、そして、きれいな標石を前にしての昼食は、満ち足りて本当においしかった。往路を胎蔵寺に下山、夫人は登頂を喜んで下さり、椿を切ってお帰りのご厚意であったが、まだ高砂峰に登らねばならず、花の落ちやすい椿は勿体なくて、せっかくながら固辞させていただいた。夫人からその山は、奥塩久ですね、どうか気をつけてと、親切な言葉をいただいて、高砂峰に向った。着いたのは、矢の内の登山口でなく、なぜか奥塩久であった。まったくどうかしていたぞと思っていると、チビっ子たちが私を物珍らし気に見て、タンケンがきた、タンケンがきたと、可愛い声で寄ってきて虜にした。さらに足立敏明さんに観音礼場から尾根伝いに行くよう勧めていただき、ふらふらとまた悪癖が出て、正面登山路でなく横道をたどってしまった。もと尼寺の建物から取付くと、猪垣の向うに弘法さんと観音さまの石像が点在していく、八十八ヶ所の巡

礼コースがあった。かつては、春・秋の法要に見世物、出店で賑わった仏さまたち、ということだった。六十番台の仏像群と別れて、右折して行くと、風化斜面に出て左下からの踏跡を合せ、胸をドキドキさせる艶やかなツツジのトンネルをくぐって進むと、峰頭が見えて分岐、この方が楽であろうとトラバースをはじめた。しかし美林に入って下りだす、戻っても大した損にならないのに、意地張って直登の拳。一汗して藪の高所に上った。△のない山だからその高所を頂上としたのであったが、西方にくと、すがすがしい決定版の頂上があった。富士形をした高砂山、サカズキ山の佳称にふさわしいたたずまいを備へていた。 地形図、 福知山。

1987.4.18

第1633回例会

(津田さん遺暦お祝い登山)

額井岳と戒場山

奥村弘信

4月5日7時17分筥原神宮行き急行に乗り、八木で乗り換え、榛原に8時35分に着いた。途中から乗り合わせた者もあって参加者は総勢20名である。久しぶりに吉田ファミリーの参加もあって賑やかなお祝い登山となった。今日は最近になく暖かく、快晴の天气で、車中に差し込む朝日がまばゆく絶好の行楽日和である。戻り寒波で寒い日が続いた後であるだけに一層和やかさにひたしてくれ、今日の登山を祝ってくれているように思える。

駅前から丁度都合の良いバスがあり、これに乗って終点の天満台三丁目まで降りる。我々だけの乗客で殆ど貸し切り同様であった。車中からは左手に鳥見山から貝ヶ平山が横に延び、香醇山から連なるこれから目指す額井岳の双頭が美しく聳えていた。バス停の後ろに三角形の広場がありここで岡田部長の挨拶の後参加者の自己紹介があって、9時13分にいよいよ出発した。

新興住宅地の中を抜けて遙か彼方に見える山道へ向かうが、近道をとって農家の間を通り、田のアゼ道からコンクリート舗装された道に出る。裾野の広がった野を進むが、案外の急勾配で、この道の正面に額井岳が大きく見え、三叉路を左に曲がれば変わった名の十八神社である。境内で一服し、社前の水を炊食用に補給するがこの水は冷たくて美味であった。ここからは榛原の町が一望出来るいい場所である。

神社前の道を西に向かうが、この道は東海自然歩道である。すぐに分岐して山道と別れるが、左へ向かえば鳥見山へ行く。杉林の斜面を登り続けると間もなく林道に出るが左に進むとすぐにまた山道がある。ここには確かりした道標が立ててあった。少々のごろ坂になるが再び杉林に入るといい感じの道になって足とりも軽くなる。そのうえ吉田ファミリーの坊やが一行のマスコットの存在の気者で、元気に遅れもせずについて歩き、和やかな雰囲気包んでくれ、悪いおっさんの会話を横取りして笑わせ、何かと登りの苦しさを忘れさせてくれる。

やがて尾根伝いになると雑木林に変わり、木の間からこんもりとした額井岳の山頂が見えてくる。

緩い尾根道を辿ってやがて山頂に突き上げている最後の急斜面を登り切り、頂上に着いたのは10時45分であった。額井岳の頂きは幅広いゆるやかな台地で、檜の大木に包まれて、展望は余り良くなく、唯わずかに榛原の町や吉野の連山が望まれるだけであった。水神を祀る小さいお社がありその傍らに新しい花崗岩の可愛い四等三角点816mが据わっていた。以前この山頂に三角点はないと聞いていたので最近据えられたものであろう。

時刻は少し早いのでここで還暦お祝いセレモニーを催し、その後に昼食とする。先ず部長よりお祝いの挨拶があって吉田ファミリーの坊やから一同を代表して記念の品が津田さんに贈られた。これはいつにないほほえましい事で、さらに缶ビールを抜いて津田さんの健康と多幸を祈り乾杯したが、賑やかで楽しいセレモニーであった。この後三角点を囲んで座を占め、お祝い登山の恒例である大鍋にブタ汁と、生野菜ふくだんのサラダを皆さんが手分けして作って下さり、盛りたくさんの美味しい料理が素早く出来上がって、豪華な昼食となった。

12時25分に額井岳を出発して戒場山に向かう。昔は峠に戻り麓まで一旦下ってから回り込んでまた登るルートだったが、最近は尾根通しにルートが開かれたので助かる。すぐ直下する急坂を下って鞍部に辿り着き、ここからはよく踏まれている尾根道となった。ピークを一つ越してまた急坂を下るが、この付近はいい山道であった。やがて山道が十字路になった峠に着くが、北方が開けていて明るく、高原状を呈していて休むのには都合のいい場所であった。これからが最終の登りであるが、無駄口を叩きながらの楽しい登りに苦痛などはなく、檜の植林帯の台地に出るところが戒場山三等三角点737.6mで13時47分に着いた。

山のガイドには見晴しは良いと書かれているが、植林が大きくなって展望はもう駄目である。しかし額井岳に比べて明るい山頂で、暖かくて気持ちの良い所であるし、時間の余裕もあるのでつい長くここで居座ってしまった。ここでも次から次にお飲み物やおやつが取り出されて胃袋もびっくりする程御馳走にあり付け、腹が余たってしまうばかりであった。

先の峠に戻って下るよりも、山頂から東に下れば戒場寺へ行けるのでこれを伝って下る事となった。ややピークになった手前より右へ斜面の細い道を辿ったが、結局先の道と合流して杉林の中の谷状になった暗い道を辿る事になる。右手の山は高い断崖が切り立っており、この付近の山と似つかわしくない姿をしていた。やがて戒場神社の脇に出たが、戒場寺はその隣で同じ境内である。

我々が着くとお寺の奥さんが来られて鐘楼の下でお茶の接待をして下さり、お寺の話をして下さった。本堂の本尊は丈六の薬師如来で立派なもので、さすが大和の仏であるとうかがえるが、脇の四天王は如来に比べてお粗末な仏像であった。釣鐘は正応四年三月十二日(1291年)の日付がある青銅製で、国の重要文化財に指定されており、形が優美であり、乳(ち)と呼ばれる出っばりのイボが細くて小さく、周囲には薬師の守護たる十二神将が鑄こまれている珍しいものであった。

お寺で暫時休憩の後奥さんにご接待の謝辞を述べて参道の長い石段を下る。戒場の集落に出てアスファルト道を右に歩くと、再びこの道は東海自然歩道である。路傍のつくしを摘みながら歩くのは春の野ののどかな風景である。振り返ると戒場山が手前の山越しにここもまた双頭の峰を覗かせていた。

この道を40分程歩き大きく右に曲がる左の檜林の中に有名な万葉歌人山辺赤人の墓がある。入口に休憩所があり大きな案内板が立っている。墓は四角い基壇の上に置かれた古い五輪塔で、竹筒に花が供えられていた。この辺りには家が一軒もない辺鄙な所で、昔とは様子が変わったにしろ、どうしてこんな所かと思われるほど謎めいた場所である。

墓から下る道があるのでこれを辿ったが田の中に出てしまい、方向がずれバス停とは大分隔たるのでアゼ道を抜けて右の支尾根に出る。ここは伐採されていて明るく、枝打ちされた木々を踏んで下って行った。前方に住宅街が見え出し、右手の彼方には朝登って行った道が見えている。丁度あの道と対照的な位置の所を下っているのがよく解った。この支尾根を下り山裾を捲いて行き、住宅地に降り立つとそこが天満台三丁目のバス停であった。バスは都合よく、一同乗り込むと同時に発車する。バスの窓から今日歩いて来た額井岳から戒場山が夕日に映えて美しい姿を見せていた。

16時40分榛原駅に帰って来て部長の挨拶があり、一応ここで記念登山の解散となった。

今日は良い天気で暖かく、最近の寒さが嘘の様な日でお目出度い上にも目出度い記念登山であった。これも津田さん日頃の精進の賜物であると思われ、参加者一同いい思い出の山行きが出来たと喜んでいる。また久し振りの吉田ファミリーの参加で一層ほほえましく和やかで、和気あいあいと過ごせたのも大変嬉しい事であった。更にこのコースは道が良くて長閑かで明るく、お祝い登山として文句のない、いい山であった。津田さんも還暦を過ぎたとは言えまだまだ元気な事は皆が知っており、これからは若返りを計って、いつまでも益々健康で末長く共に山を尋ねられる事を心より切望しています。

お 礼

このたび、小生の還暦登山に際しまして、大勢の方々の御参加を戴き誠にありがとうございました。又、立派な記念品を戴き深く感謝いたしております。

あと10年と云いたいところですが、5年間は現役で山歩きをしたいと思っています。何卒相変りませず御交誼の程、宜敷くお願いします。

ありがとうございました。

62.3.29

津 田 実

部報の製本について

昭和60年4月号から昭和62年3月号までの部報の製本をいたします。

希望の方は部報を揃えて、事務局 大木秀実(開業準備室 869、場所は厚生会館3階)まで持って来て下さい。

申込締切は 6月15日、尚 製本代として 約2,500円必要です。

縫ヶ原山

梅津 吉田 武

昨年、縫ヶ原山に登るべきして谷を間違えて道斉山を登ったので、今年度は早々に計画を立てた。福井県大野市と和泉村の境界上にあってあまり登られていない山である。

和泉村の大納川より三坂谷に入って登られた記録がある。その他、真名川より持籠谷を入りモツカ平より登るコースもある。しかし我々は昨年道斉山へ登った時に林道工事をしていた人がいたので縫ヶ原山への道を聞いたら、正ヶ谷から三坂峠まで林道があるが僕の車では入れそうもないと言ひ事であったが、林道を歩けば三坂峠まではなんなく行けるのでこのコースを選んだ。前夜のビバーク地は雨も降っていたので、R157の真名川ダムの所にトンネルがあり、その中に非常時の避難場所があるのでそこにきめた。扉を開けばダムサイドに出られ電気もついているので車の騒音だけ我慢さえすれば最高のテント地であった。

早朝には雨もやんで天気予報では高気圧が来るので出発する。R157を若生子橋を渡り仙翁谷に入る。正ヶ谷を越えて次の谷に三坂峠へ登っている林道があるのでその林道を、約1km程入った所で駐車した。30分程登ると落石やデブリ跡や残雪がある。林道を歩くより出来るだけ三坂峠に直線的に登るために残雪のある沢に入る。シェルンドヤスノーブリッジを気をつけながら高度をかせく、植林が相当進んでいるので三坂峠と思われる所も良く見える。残雪も少しづつ多くなってきた。そして沢を埋める雪を越えたら三坂峠についた。首のない地藏さんが峠のたたずまいを見せていた。小休止をして出発する。

峠からは東北の方向に標高約350m登ると1261mのピークに達する。植林のため境界の片方は伐採されているので歩きやすく、所々にある残雪を利用して登る。やがて標高1150m位からはA級の藪である。根曲竹の混ったブッシュであるが方向はわかりやすく少し頑張れば又、残雪の上を歩き又、藪と言う感じで3回程くり返したら1261mのピークに達した。これより東に向きを変えて約20m程下ったあとピークを2箇所越えれば三角点だと思っていた。15分程下ったら視界が開けて来た。左前方(北側)に荒島岳や白山前衛の山がすっきり見え、右には奥美濃の山波が見えた。前方には小さなピークが3つ見え、いちばん奥が縫ヶ原山三角点であろう。ちょうど小蓮華山から白馬岳を見ているような形のピークであった。この辺あたりは北面なので1m~1.5m位の積雪があり、直線的に三角点に向って登った。11時に頂上についた。頂上は南側がカケのため雪がなく、雪の側面とブッシュの中間に三角点があった。少し斜めにかたむいていたが、三等三角点標高1317mにタッチした。南西方向には能郷白山、南面に屏風山、そして東方には九頭竜川をはさんで昆沙門岳、北の方にはモツカ平を越えて荒島岳とその奥には加越国境の山々が見えた。昨年登った道斉山がしっかりと雪をつけていた。約1時間休憩して下山する。残雪のところは尻セード



若生子橋

800

仙翁谷

正ヶ谷

駐車

1261

三坂峠

1966

三坂谷

縫ヶ原山
1317.0

道奇山
1188.4

1139

1
25000

中電鉦山

日本亜鉛工場

で下り林道はショートカットで下り駐車した所は2時間少々で下った。

〔参加者〕 吉田 武、大倉寛治郎、伊藤潤治、森本清一、 他 1名

〔コースタイム〕 4月7日～4月8日

7日 烏丸営業所 13:50 - 教賀 I.C 16:05 - 福井 I.C 16:40 - 大野 17:20 ~ 17:35 -
真名川ダム 18:20

8日 真名川ダム 6:35 - 林道エン堤下駐車 6:57 ~ 7:10

林道分岐 6:52 - 堰堤 (第2) 横 6:57 ~ 7:10 - 林道二ツ目の分岐 8:10 - (車両止る)

三坂峠 8:30 ~ 8:40... 樹林帯に入る 8:50... 高度 1,150 m 9:25 ~ 9:30... 境界尾根

1,260 m 10:15 縫ヶ原山三等三角点 (1,317 m) 11:00 ~ 12:00... 境界尾根 12:32...

三坂峠 13:15... 駐車地点 14:15 ~ 14:45 - 福井 I.C 16:23 - 教賀 I.C 17:00 - 疋田

17:15 ~ 17:50 - 烏丸営業所 19:42

第1635回例会

赤谷ノ頭と大蔵山

伊藤潤治

例会備考には1985年10月10日、大槻貞従さんと行って赤ンベエを喰ったと述べているが、実はその14日前の9月24日にも名誉の退却があって、本行は3年越し3度目なのである。登路は二度とも、戸倉峠隧道西出口から約2.2kmという点ノ記の順路を参考に、刀及ばなかった。この山に、兵庫焼の愛称を付した加藤文太郎(1905~1936)は、戸倉から登頂しているの、波賀町役場へ立寄りいろいろ尋ねたが、担当者不在もあって、山名さえも確認できなかった。

赤谷ノ頭という山名は、地形図にもなく登山家向けのものかも知れない。今度の登路は第二回目に発見したトンネル東口横の林道からである。ゲートが開いているのを幸い鳥取県境まで入ったが、思わく違いで手が付けられずゲート近くへ戻った。その右岸の坊主斜面の作業道を利用、伐採が終るとすがすがしい木立の疎林になって、大ブナの立ち並ぶ因幡国境稜に上れば、なつかしや名物の竹が猛猛しくお目見えになる。でも、見覚えのある枝折りが幅を利かして、それぞれ迎えてくれたのには感激した。いい気分で進んで行くと、突然1,080m地点から枝打ち、これが切っ先鋭い槍ブスマなど、意外な障害ができていた。当然難を藪へ避け自然のままなる藪に助けられて行く。

1,140m、竹が急に消え、すばらしくて絶叫を浴びせたい大ブナ林が展開している。ここは昼食抜きで頑張って、なお時間切れであった。なつかしい第一回目の古里である。右から支稜が合うと雑林にかわり、左前方にお饅頭形の美しい峰が見えた。そのお饅頭が山頂であって、立派な山頂である。確かに名実ともに赤谷ノ頭である、とうれしかった。篠のトンネルを胸ドキドキでたどり踏れてⅡ△1,216.4mには、1987年4月15日、13時55分、櫓の中心部があり、上れば展望360度、雄大間違いないのだが、私は標石といえるだけで充分であった。

山頂を辞去してから、甲冑姿のような三室山。ほほえみのある藤無、三久安。巨鯨を思わせる、くらす、その他、かって私に登頂を許してくれた山々の展望を、次ぎ次ぎに楽しめた。だが、感動を絶叫で表現したのは、因・播国境稜の美事なブナのたたづまい、それに残雪の氷ノ山が重なった光景である。せつかくこの最高の感動場面に、手を取り合って喜べる友がいないのが寂しい。残念だった。ちなみに、日本山岳志は、戸倉山、因幡国八頭郡、播磨国宍粟郡ニ跨ガル。八頭郡池田村大字落折村ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。全山花崗岩ヨリ成ル。標高凡二千六百尺。を載せているが、若桜町で尋ねたが不明。落折が赤谷ノ頭の点名なので、念のため尋ねたのである。

コースタイム 駐車点 11:20…因・播国境稜 12:00…槍ブスマ 12:50…私の古里 13:13…

赤谷ノ頭 13:55～ 14:35…駐車点 16:38

めでたく本懐を遂げ得たので、早速ご褒美をたまわることにした。いたがきたいのは、日本山嶽志の、大蔵山、播磨国埴保郡ノ南西方ニアリ。平井村ヨリ一里三町ニシテ其山頂ニ達ス。全山岩ヨリ成ルモノノ如シ。標高凡千三百尺。である。他にこの山は、兵庫でも名のある岳人氏も、その随想「兵庫百山において、竜野市の最高峰、21、大蔵山(520m)と、ご紹介である。この竜野の最高峰は、地形図も竜野が、私の図葉は△521.1だけで、山名も破線もなく、まだ踏みしだかれざる、自然美の存在を夢見させたのであった。予定は、点名の「中垣内」と日本山嶽志の「平井村」により、中垣内平木を登路とし、井関の神社を設営点としていたが、現地では、ハンドルを切り損ねて長坂に入り、戻ろうと思ったが、破線が車道になっていて、奥には幸せが待っているらしくきこえたので、ためらい無くそのまま、送電線下を越えて終点間近の草地に入って落つた。車道を隔てて狭小の耕作田。その端に隠れている谷のうまさうな水のひびき。これらを育ち盛りの植林が取まき、その林上へ22時には、16.6の月が昇り星とともに夜空を遊び、翌朝4時20分その月を西山に入らしめた、うるわしい環境に寝たのであった。5時10分、どこからかウグイスの美声。5時15分、帰途もう一山の計画で早発。左岸によい道があり、美林から幼木の斜面に出て、支尾根の芯につく。その尾根は間伐材や枝打ちが、ひっくり返っていているさかった。約20分にして、またちらほら露岩があり、明るく伸びやかで、チガヤのドライフラワーが立ち檜の稚樹の整列している斜面へ踏出し、仕切り畝、イバラを左右にあしらいつつ、ほほ直登していくと、自然石による灯籠があって、さらに高所の大岩上には、素彫でささやかな石祠がご鎮座であった。二等三角点は、この大磐石神の背後にあり、これはこれのご褒美の大蔵山であった。ご満悦での下山は、きれいな植樹界の芝生を踏んでca420m峰まで下った。そして往路の隣り尾根に迷いこみ、ここでも間伐材の歓迎があった。そのためではないと思うのだが、駐車点に戻る頃は両ヒザにガタがきていた。帰りかけている時里人が下山してきた。その人は頂上神をアマ(雨)神とだけ知っていた。きょうのヒザは保護の必要がありそうなので、大事をとって次の一山は登らず、その時間を家路にかけることにした。車も30～40kmで、あせらぬ走行というのは、こうも楽なものかと、西脇市までくるとチャーチ灯がついている。ファンベルトのプーリー破損、めったにない故障らしいがこの車は二度目である。しかし親切な人たちのお蔭で、即刻修復してもらえ大助かりであった。だが、もし山を欲張っていたり、それで夜中であつたのなら、日曜日であつたのなら、中国自

動車であっても、どんなに惨めであつたらう。今朝の痛みは、わが守護神のご配慮であつたように思えて、ありがたくてならない。一病息災とはいひが、私は自分のヒザ疾患の不治を、喜ばねばならないのだろうか。しかし考えると、故障がうまく始末できた位いで、この感動はどうもおかしい。なぜ、いつもの無事にこんな感動がないのか。どうやら私は、甚だしい山ずれと幸運無事に慣れすぎて、これは謙虚や初心を失っている証拠であると、気づかねばならなかつた。

コースタイム 長坂奥 5:15…大蔵山 6:45～7:00…長坂奥 8:08～8:45…西脇市 10:40～
12:15 一掃洛 16:05

1987.4.21

第1636回例会

春山大会 越前甲～大日山

大槻 雅 弘

越前甲― 誰がこのようすばらしい名前を与えたのか。…「ひとすじの道」―小松誠遺稿集（元交通局顧問弁護士）に書かれている越前甲の言葉。何度となくアタックして冬山を制した小松氏の越前甲に対する情熱に、また、二年連続して加越の取立山から見た山谷に登高意欲をかきたたられ、春山大会の一つとして取組むことが出来念願の三角点を踏むことが出来た。

グルメ大会のテントの中は、久し振り楽しいにぎやかな夜となった。一年振り復帰の古市さんを囲み、まずワインの乾杯で始まり、焼肉からぞうすいまで、出るワ、出るワ、アッと言う間に時がたち朝を迎えたのである。

横倉の部落をつめて、野津川又川に沿った林道終点のテント地をあとに、大日峠へとルートを探った。すぐにエン堤に当たり、右岸を乗越してみたものの、径は不明で、エン堤の基部からブッシュにつかまり少し上ると地図上の径へ出ることが出来た。

やがて、案内書どおり小さな地藏さんを過ぎると、杉木立の雪が残る径が上部へと続いていた。

春の足音と、雪融け水の流れが競い合うように、山々は新芽を吹き、こぶしの花や桜の花が満開であった。足元からはフキのトウが歓迎してくれる。誰かれなく、ウキウキとして足を運ぶ。ある時は雪の上を、谷の中を、そして峠をつめて広い雪田に大日峠への道を失ってしまった。歩きやすいと思って雪の中を進み、峠より250m程西の稜線へ出てしまった。

下部から見ていた分では、まあ、雪はしれているだろうと思っていたが、尾根には、しっかりと雪が残っていた。

遠くで見た甲の姿と、近くで見る姿は、また違ふ。岩肌が巒の札（さね）に見え、急峻な山肌へぱりついている。

急登して一息つくと、ゆるやかな広い尾根になる。そこから1200mコンターに沿っての岩稜がまた甲の形を成していた。その間の雪を登り切ると、もう登りはなく、二等三角点1319.6m 越

前甲が、顔を出していた。万歳の声は、遂に続く大日山でも届きそうに、力強く大きく三唱をした。

もう、ここで十分だと言い原田さんを残し、後のメンバーは大日山へ進んだ。越前甲より少し高い大日山が、白い、長い尾根のむこうに座っている。その左手に加賀甲が、雪を払いのけて美しい緑の肌を見せていた。

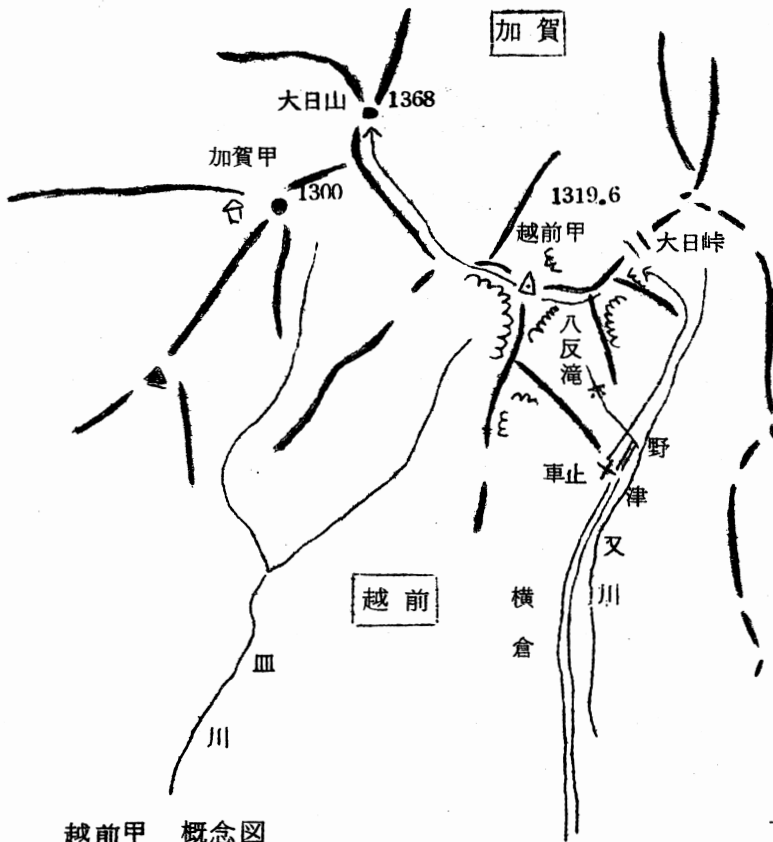
.....

今までラストに歩いていたが、これより私がトップを歩き皆んなに尻を押されて、ハハハ、フウフウのピッチで一気に大日山へ登り着いた。遠くに見えていた山も、細い尾根も、心配していた程ではなく、予定どおり大日山で万歳が出来た。

いつも思うことであるが、山頂に立つと、そうもむづかしくもなく案外簡単に登れるものだが、山が遠い。それは何故か、計画したり、自分自身の中で、表に出すまでに長く長く、山に想いを寄せ秘めているからだろうか。いずれにしても長く想っていた山ほど、感激も大きく、友との喜びも大きい。この山もその一つであった。

山頂で、石川県の人達と一緒にになり、四囲の山々の山名を教えてもらい、大日山をあとにした。

下りは、往路を下山と言っても、同じぐらいの起伏が続く尾根は、越前甲まで同じ時間を要した。



越前甲 概念図

永平寺・越前勝山
1/25,000

越前甲からは、登り見失った大日峠へ下り、車止まで予定通り全員無事下山した。

当初、計画した時は、参加者が少ないのではと思いましたが、8名の参加を得て、どうかか春山大会の位置づけが出来、担当者としてホッとしたところです。どうか、他の部員の方も年間計画に合わせて、一つ二つの山行を、自分の計画の中に組み込んで、自分の年間計画を立案して下さい。

一日、参加者の方に車のトラブルの為、帰路が遅れましたことを誌上をお借りしてよろしくお伝え下さいと、古市さんからの便りー

〔コースタイム〕

4月18日(土) 京都東IC 15:00ー横倉車止テント地 18:00

19日(日) テント地 6:10…7:30 送電線交叉地点…8:35 尾根取付…8:45 尾根…

9:40 P 1180…10:10 越前甲Ⅱ△ 1319.6m 10:30…11:55 大日山

13:00…14:20 越前甲 14:30…15:05 大日峠…16:35 車止 17:00ー勝山

20:00ー22:35 京都東IC

〔参加者〕 津田、大槻貞従、古市、和田、三橋、原田、方山、大槻雅弘

以上 8名

第1638回例会

旧中山道を行く

(関ヶ原～柏原)

井上一夫

例会予定の4月26日は生憎の雨にも拘らず合計30名の参加者を得て歴史ハイキングを行う事ができました。初めにお断りしておく今回例会は、私が別に入っている会の例会に相乗りしたものです。その会では歴史ハイキングと称して過去には比叡山の古道や吉野山等へ出掛けてきて、今回11回目の例会となっています。

東海道本線を東へ向いJR東海の関ヶ原へ到着した頃には寒冷前線の通過の為か肌寒さも加わった無情の雨が本格的に降っていました。駅の待合室にて雨の身仕度を整えて、本日の案内役をお願いしている神戸大学教授の戸田芳実氏よりコースの説明を聞いて出発した。本日のコースは五街道の一つの中山道六十九次の中で関ヶ原宿・今須宿・柏原宿の三宿を歩くものですが、山間の余り起伏の無い道を進むものです。途中までR21を通りますが、ほとんど自動車の通らない静かな旧街道を歩きます。

駅前の道を南行してR21で西へ向って歩きます。雨のため辺りの山々は霧の中でした。国道沿いに関ヶ原合戦の死者を葬った西首塚がある。そこから少しで国道と別れて旧中山道に入る。

関ヶ原と言えば戦国時代の天下分目の合戦の舞台としてあまりにも有名ですが、きょうは雨の為に古戦場へは行かず中山道を予定変更しています。ちょうど西首塚の北方が開戦地となり激戦地であった。また南方にはこの合戦の雌雄を決する行動を起した小早川の陣地のあった松尾山があ

る。所々にある標識に昔日を偲ぶ由もなく雨の中、静かな町並みの旧街道を進んだ。それもしばらくで「不破の関跡」の案内板の立つ不破の関跡に到着する。案内板の立っている場所は、律令制の不破関が停廃された後、鎌倉時代に東山道を通る人荷から関銭を徴収する不破関が史料上みられる。

この関守の跡と伝えられる場所である。裏庭には後世の碑が建てられている。有名な関ヶ原の地名も元来、不破関の関の前の原という事であった。

裏庭でテーブルによる案内を聞いた後で我々は、ここから歩いて3分程離れた「不破関資料館」へ行き見学した。何故この地に関が置かれたのかよく分かった。見学の後で、資料館の御厚意により、館内で昼食にした。お茶の接待までしていただき恐縮しました。

美濃不破関（資料館のパンフレットより）

壬申の乱（672年）の勃発にあたって、大海人皇子の舎人であった美濃出身の村国連男依らが「不破道」を塞いだことが『日本書紀』に記されている。乱後、不破道の重要性から関が設置され、大宝令（701年制定）の中に東海道の伊勢鈴鹿関、北陸道の越前愛宕関と共に東山道の美濃不破関として定められた。この3つの関を「三関」という。

資料館を出て坂道を下ると藤古川に掛る橋を渡った。古い時代にはこの一帯で藤古川に掛る橋はこのみであったであろう。この周辺がいかにも東西の交通の要所であったかは、現在でも、この南北1kmの範囲に東海道本線、国道21号線、新幹線、名神高速道路がひしめいている事でも分かる。

さらに進むと再び国道に出合が中山道は国道を横断（歩道橋）して進む。山中の町並を通り、新幹線のガードをくぐると道は緩い登道となり東海道本線の踏切を渡ると中山道はしばらく両側に山のせまった道を進む。地図を見ると東海道本線のトンネルがこの下を通っている事が分かる。そのために奇跡的に中山道が残っているのだ。そしてこの道は国道が今のルートを通る前には生活道路としてりっぱに使われていた事が舗装された道から容易に想像される。道の幅員等は交通の手段の歴史によって変わった事であろうが最近まで（いつ頃かは不明）中山道がりっぱに古道ではなく、ここでは生きていた事に深く感心する次第です。坂道が一番高くなった所に山中と今須の境界の標石が立っていて、そこから坂を下ると再度国道を横断する事になる。そして、今須宿へと入った。この町は近代的な交通の要所にありながらひっそりと忘れられてしまったような場所にある。今でも旧街道沿いの細長い町は、今後とも国道・東海道本線と名神にはさまれて広がる余地は少ないように思う。

今須を過ぎるといよいよ美濃と近江の国境に到着します。現在は岐阜と滋賀の県境ですが、そこにりっぱな「寝物語」の石碑が建っています。昔の話ですが寝ていると隣の国の話声が聞えたという事らしいのです。（詳しくは知りません。）

いよいよ近江国に入りましたが、柏原宿までは以外に早く到着しました。駅前を少し通り越していくと昔ながらの大看板を上げた伊吹もぐさの老舗があった。

歴史ハイキングも予定はここまで。余力はあるもののまずはここまでです。中山道は醒ヶ井宿、

馬場宿へと続くが、我々はJR柏原駅から一路京都へ向った。

車中で戸田先生から、江戸時代の紀行文の中にこんな事が書いてあったとお聞きました。

「(不破の辺りを通っていた時に、きっとカゴにでもゆられながら見たのでしょうか。)カッパ屋の看板に『不破の合羽』というのがあった。破れない合羽とは何々面白い名前だ。」

一日雨の中で大変お疲れ様でした。山の例会としては物足りないかもしれませんが、現在と昔をラップさせながら歩いた歴史ハイキングの報告も以上とさせていただきます。

〔参加者〕 津田 実、横井襄二、楠とし子、大杉雅晴、井上一夫、川原博治

〔コースタイム〕

京都 9:18 - 米原 - 関ヶ原 11:00 ... 11:35 不破関 12:45 ... 美濃・近江国境 13:55 ... 14:20

柏原 15:23 - 15:40 米原 15:48 - 16:59 京都

第1639回例会

道 斉 山

その一 唐木岳(大野)

伊 藤 潤 治

予告した25日・26日は、誕生日を自祝する山行であったが、三男夫婦の訪問をきいては留守もならず、27日・28日に変更した。彼等の滞在した25日・26日が雨天であって、息子たちよ、よくきてくれたと思ったことである。

27日、三条京阪南口でN氏(JAC岐阜)と、JR米原でK氏(ワサビ会)を迎えて、北陸武生ICから越前の里を経て池田町に入った。そこでふと思いつき、かねてから気になっていた唐木岳コース、辻川通常砂防えん堤(旧凶魚見隧道南)道へ右折する。畑作業の人に、唐木岳を尋ねると、ここからは登れないので、魚見に行くようお願い下さった。せっかくながらそこに山頂があれば、そのご親切には従えず、えん堤付近に駐車し、左岸の道でえん堤上流に入り、右岸に渡って小流をまたぎ尾根に取付く。鉾目も枝折りも踏跡も見当らず、根曲り竹もまばら、筍ちょいちょいの急坂は、やがて芳わしきブナの若葉、タムシバの白花、またちょっぴり雪を残している部子山のご登場など、壮観になって、これだからヒザが痛くても登られると思った。東尾根に上って、鉾目枝折に気がついたが、ここはかえって通りにくかった。タムシバの花が咲く、まばらな木立の中に唐木岳 $\Delta 738.1m$ があった。もう、どうでもよい事だが、魚見よりの道は顕著に見えなかった。昼食は、段ノ岳、金草岳、冠山を展望できる茅場下って、ゆっくりいただいた。えん堤付近でアサキを薬味にもらいヨモギに向った。

〔コースタイム〕

駐車点 10:30 ... 東尾根 12:12 ... 唐木岳 12:27 ~ 12:33 ... 茅場 12:40 ~ 13:05 ... 駐車点 14:15

その二 ヨモギ(大小屋山)

大野凶業は、大小屋山を注記しているが、ここ菅生、新保、東俣では、ヨモギが山名である。ちなみにヨモギは、イネボ・735mと、段ノ岳△729mとで東俣三山と称されているのである。菅生から見るヨモギは西尾根がスマートで、コースとしては距離的にも西尾根が最良と思った。イネボ林道からヨモギ林道に入り、右の田圃が終ると左に新しい林道があった。これは儲けになりそうと左折すれば、すぐ分岐があってまた左に入ったが、これは・508mに向うようであったから、直進路に戻りその終点まで詰めて駐車した。そこは西尾根北斜面下370m地点。さんさんたる日差しを浴び、ワサビの白花咲く小流の岸を踏んで行く。410m位いで左岸に取付いた。これが甚だしい軟弱地で、足元が抜け、落石しやすい嫌な斜面であった。けれど少し土をほじくれば良質のウドが採れる。ウドの宝庫と分っては、みだりに立入ったら畑荒らしである。計らずもウド採りさんがいて、ヨモギは尾根を登り詰め左へ廻り込まねばならぬ。ここでもヨモギの確認ができた。N氏もウドに魅せられ熱心に掘っていた。西尾根へは600m地点に上った。やはり茂っていたが作業道があり、時間に余裕のない折だけにほっとする。西峰直下で植樹帯が終ると作業道は、ぷつんと消えて灌木林。古い鉈目は散見されたが、この分ではヨモギには訪れがほとんどないようである。梢越しに見る△峰は、かなりの距離を感じさせ、心が急いだ。昨1986年5月以来の念願であった。ヨモギ■△734mにめでたく登達させてもらった。相当な感動であって、シルバーコンパスを置き忘れて辞去、西尾根下山の正面に立つ、唐木岳の秀麗にも感動させられた。

〔コースタイム〕

駐車点 15:00…西尾根 16:13…ヨモギ 17:08～17:25…駐車点 18:30

道 齊 山(荒島岳)

ヨモギ下山のあと、足羽川をR158号に出て、大野市でR157号にのり五条方で20時。この時N氏が、去る7日縫ヶ原山の折、雨のため設営した若生子トンネルで今晚も泊ろうという。雨の心配はないが、予定地点へはなお30分は走らねばならない、その上暗闇である。ところがトンネルは蛍光灯がつく、とうとう勝手知ったる、という事になる。

天幕を張りそれぞれご馳走をならべ、生ダムを汲み交しごきげんさまの時、蛍光灯が消えた。スイッチを押すと点灯した。この繰返し三度。おかしな蛍光灯だと話していると、私は真名川ダム管理所の者ですが、貴方さま方はどちらさまで… どういう御用でここにお出になられたか…と二名がこられた。私たちの無断占拠が蛍光灯の度重なる点滅により、トンネル内に異状ありとこの人たちを驚かせたのである。理由を説明して平伏、寒い夜ですからお風邪を召さぬように、と滞在を許されたが、えらいご迷惑をかけて申し訳なかった。28日は朝食抜き、つまり朝めし前に道斉登頂の意気込み、それで5時25分トンネルを出る。まばゆい空に道斉山が美しくすくくと構えていた。仙翁谷から延長3,325mと表記の道斉林道にかかったが、落石散乱のため折点で駐車とは、普通車の悲哀。これはY君たちの話とはまるで違ふ。どうしてくれるんや、とほやきたい誤算である。だが20日前に縫ヶ原山に登って、落石に埋った林道を経験してきたばかりで、この状態を察知できないのでは、綿密な計画はできん事を思い知らされた。その縫ヶ原山はすこぶるシャープ。

道斉にこなければ見られぬ英姿だ。石さんと千ちゃんと汗した堂ヶ辻山もジャンとしていたが、前峰直下まで林道では可愛いそう。昨夜の設営予定地点は、堂ヶ辻登山で利用した屍鉾付近、なつかしくながめ黒谷側に出て、皆伐斜面を仰がせられる。この尾根直登が最短距離と思えば心は躍った。けれど楽な林道を右に廻ってヒダを縫っていくと、経ヶ岳、やがてその名の如く白山連峰がお出ましになる。滝ノ谷、西小谷の水上を横断して真名川側に出ると、笹又峠東の $\Delta 860.8m$ は既に足下。そして、はっと胸つかれるのが、残雪多き銀杏峰の壮観である。何と豪華で力量感みぎる巨像なのだろう。これも道斉ならではの偉観である。それにしてもどこまで続く林道ぞ。この銀杏峰せっかくの展望で、レモンティなど腹ごしらえ、としゃれた。林道は北側に入ると緩やかだが谷には依然として水がない。林道に倦んざりして行くと、伐採をまめかれたブナが左右に立ち並び気分を爽やかにしてくれ、避難用か納屋かコンクリートの新築がある林道終点につく。そこは道斉山西稜下1040m地点で、林道は下へ続いていた。林道先端を左へ上ること僅かで西稜の伐分けに出られた。ていねいな伐分けは間もなく終り、濃淡なる茂みの繰返し、だが応えたのは真夏日の暑さ。しかし遂に、道斉山Ⅲ $\Delta 1188.4m$ を登れたのである。座して姥ヶ岳・若丸山を展望させてもらい。この山も点ノ記入など懸想してから登頂まで、姥ヶ岳・倉ノ又山、鸛鞍岳、堂ヶ辻山、越前甲、木無山、縫ヶ原山を割込ませた、随分縁遠い頂きだった。思いがけない大野親岳会さんのアルミ標があり、滝波さんと夫妻、浅山さん、小沢さん、浦井さんが目にうかがひなつかしかった。往路を下山せねばならぬものと思っていると、北稜に鮮明な伐分けと踏跡があったので、それをたどることにした。往路を下山せねばならぬと思っていたが、北稜に鮮明な伐分けと踏跡があったので、これをたどった。・1175mで急坂に臨む場面になって、鮮明が途絶え、不意にジャンジャンの興を与えられて、白山連峰などの大観が待っている伐採地に出た。あと、甘露水にありつき、林道末端部に出て、タラ芽の林、これをN氏はがぼっちょうだい、もうごきげんさまで駐車点に戻った。

[コースタイム]

駐車点 6:15…林道終点 8:35…道斉山 9:40～9:55…伐採地 1050m 10:45～10:55…

林道 870m 11:43…駐車点 12:20

昼食のあと13時35分。笹又峠東 $\Delta 860.8m$ を割愛して、第1640回例会の鈴鹿へ直行する。

1987.5.5

第1640回例会

ヒノキと旭山 (御在所山)

伊藤潤治

越前国の道斉山から近江国神崎郡永源寺町政所官ノ谷に移って落ついたのは、4月28日16時55分。早速開店したのは、N氏の割烹、板前さんぶり、佐目で調達したサラダオイル、小麦粉、

ボン酢などに、ヨモギのウドと道斉のタラのフライ。鮮やかな腕前にも感心したが、ウド、タラがこんなに美味とは知らなんだ。生ダルは3ℓと豪勢、アサツキ薬味の味噌汁もよく合い、さぞ腹の虫も仰天したことだろう。寒風が吹きおろしてきたが、下半身をシラフに包み、戸外の宴は暗くなくてもたけなわだった。

29日は、朝食のあと5時30分出発。昭和61年度完成えん堤で林道は終り、送電塔巡視路になる。きつと急坂のジグザグ、目に汗のしむ道であったが、若葉の緑がたまらなくきれいで、ウグイスの声も大変さわやかだった。尾根に上ると、黒く鉄塊のような山が横臥している。竜ヶ岳と静ヶ岳だった。足下は植樹したばかりの原で、見晴らしがすばらしい。藤原岳も目に入った。北に下れば山の神峠、祠はないようだった。その上で雑木林のさわやかな道になる。少しで左に伐採面が現れると、横木の階段の上下、伐採面を背にしてしばらくで、旭山Ⅱ△756m。この△は変った色をしていた、どういふ名の石だろう。トラバースがあって尾根に立つと、天狗堂を爪先から頭の天辺まで見晴され、鍋尻、御池も見渡せた。横木の階段を下ると、冷たい水が音をなして流れていた。これは感動である。辺りは植林のためか橋材に、惜しいような良木が使用してある。小屋のそばで道が分れている左を進み、第188号鉄塔に上り、左の小丘に登ると、茅に包まれてヒノキⅢ△844mはまぶしい南望の空の下にあった。ここでのお月見はよいだろうな一、想像していると、天幕持参で実現させてみたくなってしまふ。ちよつと鉄塔は立ち並ぶが、広展望の巡視路はありがたい。お勧めしたいコースである。なおこの図の割山△899mも好展望、この最高峰ca920mの石楠花の花期も美事であろう。

〔コースタイム〕

駐車点 5:30…山ノ神峠 6:27…旭山 7:07～7:20…水場 8:08…ヒノキ 8:38～9:05…旭山
10:18…山ノ神峠 10:58…駐車点 11:43～12:30—J A近江八幡 13:35—名神栗東 14:18—
京都東 14:30

1987.5.7

第1641回例会

小金沢連峰 黒岳と大菩薩嶺

梅津 吉田 武

南アルプスの仙丈岳より派生する地藏尾根上にある「穴沢の頭」、北海道「黒岳」、美ヶ原にある「物見石山」、八ヶ岳のピーク「1986.5m」そして今回の小金沢連峰「黒岳」と西暦の山へ行ってから5年目である。

3日AM4時30分に三条京阪へ集合した。僕の愛車タウンエースと津田さんの愛車カリフォルニアに分乗して一路東へ…

生憎の雨で道中の車や道路状態が心配されたが快調に勝沼ICを降りる事が出来た。そしてR20

を初鹿野まで行き、ここから日川林道に入る。六本杉橋手前より焼山沢林道を約5km入った所に駐車した。林道はこれよりまだ上部の湯ノ沢峠までついていたが、ウォーミングアップのつもりで登山コースを湯ノ沢峠まで歩くことにした。雨が降っていなかったし、所々にサクも設けてあった。峠にはりっぱな避難小屋も建っていたので小休止をして稜線を黒岳に向かって登った。唐松とススキの高原状の登山道で白谷丸のピークを横に見ながら30分程で一等三角点「黒岳」についた。樹林の中なので展望はきかないが、パンザイをしてワインで乾杯をした。

500円紙幣の裏に富士山の写真があるが、この黒岳の東方にある雁ヶ腹摺山からの写真で、黒岳からもそれに似た富士山が見えると期待したが、この樹林帯とガスでは何も見えなかった。下山コースは往路下山であったが、白谷丸手前の展望が良い場所に来た時に雲の間より富士山が一面に雪をかぶって見えた。誰れともなく「ワー」と感激の声を上げ、シャッターを切る者や、シャッターの切れない人…暫くの間この一帯で騒めきがあった。

雲がくれする富士山を見ながら白谷丸のピークを往復する。天気も少しづつ良くなり南アルプスの北岳や間ノ岳そして農鳥岳も真白に雪をかぶって見えた。30分程で湯ノ沢峠についた。山菜採りの人が少しいたがあまり気にせず車の所についた。六本杉橋を渡り「天目山、栖霞寺」に立寄り見学をさしてもらい。摩崖仏がたくさんある周遊コースがあるが、時間がかかるので割愛して今日の宿泊地嵯峨塩温泉に向った。

4日、昨夜の疲れもとれて今日登る大菩薩嶺の登山口「上日川峠」に向けて林道を北上する。雨が降ればぬかるんでスリップするような林道であるが、今日の場合は所々ぬかるんでいる程度で気分よく走行する。ゴールデンウィークのため、上日川峠にはマイカーがいっぱいで駐車場所にこまっていたが、峠より少し下った所に空地があったので駐車して大菩薩峠の道標に従って登る。この辺は唐松林と笹原で気持の良いコースである。20分程で富士見平についた。ここより大菩薩峠に登る道と、大菩薩嶺に行く道と別れる。唐松尾根を大菩薩嶺に向けて登る。雷岩までは1時間程の急登でここをカンパレは頂上まであと10分程である。ノンストップで全員が雷岩まで来る。気温4℃、風が強いが小休止をする。昨日と同じで今回の山行はどこでも富士山を見られる。10分たらずで頂上三角点についた。

今日の昼食は鯖寿司と味噌汁で、その他いろいろな食べ物が、出るわ、出るわ…。歩けない程食べたので30分程休憩する。この時の気温が16℃でぽかぽかと温かくうとうと寝むくなった。頂上からは雷岩を通して大菩薩峠まで約40分程で行ける。高原歩きなので思い思いに峠まで歩いた。中里介山の小説「大菩薩峠」の題名として有名になった山である。書き初めは「大菩薩峠は江戸を西に距る三十里、甲州裏街道が甲斐の国は本山梨郡萩原村に入って、その最も高く険しきところ、上下八里に跨がる難所がそれです。標高六千四百尺、昔、貴き聖がこの嶺の頂に立って東に落つる水も清かれ、西に落つる水も清かれと祈って菩薩の像を埋めて置いた。それから東に落つる水は多摩川となり、西に流るるは笛吹川となり、いずれも流れの末永く人を湿らし田を突らすと申し伝えられております。」とある。大休止をして写真や軽食をすませて、介山荘の裏より富士見平へ下った。この時間になると富士山にも雲がかかって景色も今一である。1時間程で上日川峠につい

た。この峠より砥山三角点1604.5mまで15分程なので往復する事にした。登山道はあるが開道化しているので砥山峠まで林道を使って、そこからは三角点までは切開きの所を10分程登ったら、三等三角点、「砥山」があった。この頂上からは、北西方面しか展望がえられない。奥秩父の金峰山や、国師ヶ岳方面が見える。バンザイをして上日川峠まで下って今日の宿泊地、裂石温泉「雲峰荘」についた。汗を流して、カンパニー、今回の山行は終りをつげた。あとは観光をしなから京都まで、今日中に帰ればよいなあーと思った。思っていたよりも混雑もなくスムーズに京都まで帰れた。

【参加者】 津田夫妻、大倉夫妻、原田加津子、方山宗子、奥村弘信、今井勇一郎、
吉田 武、康一 10名

比良山 Y 字 縦 走

上 田 嘉 夫

4月24日～25日

京交山岳部の皆さん初めまして、今年4月に入部しました上田です。此度、比良山縦走に広沢、久保田（五条営業所）、野端（西賀茂）、田中（大阪市交通局）、上田（烏丸）の5名で挑戦しましたので報告いたします。

京都駅18時発の湖西線に乗車、高島駅を経て武曽口を19時20分に出発、蛇谷ヶ峰21時15分着、久保田さんは山は愛宕山しか知らないと喜びながら足どりも軽く快調に歩く。久保田さんいわく「広沢さんの足には電池がついてんのとちがうか、熊笹の中をあれだけのスピードでよう行けるわ」ほんと、ほんと、離されたら真暗で道がわからへん。（電池はアルカリでっせ、長持ちしまっせ）大阪の田中はん…少し遅れだす。

23時10分、夜食を摂るも10分も立止ってると寒くなり歩きだす。24時、ツルベ岳着。満天の星が近くに見え大変きれいだ!! 0時40分、武奈ヶ岳頂上に着くが後線は風がきつく寒い。

コヤマノ岳を抜けて中峠、ヨキトウゲ谷で水補給、金糞峠2時5分とどんどん進んで烏谷山3時10分、木戸峠4時15分着で食事…広沢さんが「田中はん!! この小屋で寝てたら帰りに起したるで…」田中はん「一人やったら怖いし一緒にいくわ…」日ノ出5時12分、小女郎峠手前の所で鈴鹿山脈より真赤な太陽…感激!!。

この頃より膝が少し痛みだす、権現山5時50分ここで縦走半分、田中さんは此所で縦走を打ち切られて下山…御苦労様でしたと別れる。Uターンして出発進行で烏谷山7時45分膝大分痛みだす…北比良峠で中止にしようと思いつつ歩く。北比良峠9時20分ケルン前で顔を洗いながら時間も充分にあるし続けよう決心。

シャカ岳10時、フジハゲの下りで膝に激痛を感じてスピード低下、皆さんについていけないの

でリタイヤ宣言。野端さんも調子が悪く共に北小松におりる事にする…と一度に疲れが出てきたかんじ…残念無念!! 又いつかーやるぞー!!。

為念、広沢・久保田の両氏は14時20分高島駅へ無事に到着されたとのことでした…縦走成功お目出とう。(久保田さんは、48才。貴方は強い)。

— 後感想 —

寒さ対策をしっかりと、とくに膝にはサポーターが必要、リタイヤの時期判断を誤まらぬように等々… この膝の故障で楽しみにしていた春山(岳沢コブ尾根)が駄目になりました。以上で初投稿を終わります。

目 録 (照 顧 脚 下 の 改 称)

伊 藤 潤 治

初稿において、部報はわが京交の山岳辞典であり、登山史であると述べながら私は自分の座右銘「照顧脚下」を我流解釈で書名に用いていた。これは、過去にどんな山々が例会で登られているか、それを洗い出そうと、私に念願させた語彙であったからである。しかし、稿を重ねるに従い、「常にかえりみよ」の語意は、私自身にはありがたくても、京交山岳部創立以来38年の業績を示す書名としては、あまりふさわしくなく感心できない、と気付いた。

それで本稿より、これが最もすなおと考え、目録と改称することにした。名称を改めた本号から自然をこよなく愛した人たちが、春夏秋冬の体験を綴った例会及び個人山行報告をはじめ、すべて山に関するエッセー・研究など珠玉の作品群を迎え、喜ばしい事であったが、この分類と配列が意外な跋山であって、手こずった。大いに頑張ったつもりでも、残念ながら大雑把な索引の有様である。けれど、ちょっと不備を補ってもらえば福音を得ること絶大であり、安全登山のため各位に活用いただければ幸甚である。

あ

アァ 槍ヶ岳 369号。

饗庭野基線調査 183号。

青山高原 170号。

赤石岳から荒川三山 203号。

赤石岳と伏見山 355号。

赤坂山と寒風山 410号。

赤坂山と三国山 338号。

赤谷 165号。

赤谷山と日野山 345号

秋の板取溪谷、蕪山 146号。

秋の陽光の夜叉ヶ池・三周ヶ岳 363号。

明ヶ田尾山△619.9m 245号。

朝熊山 124・160号。

旭ノ川峡谷溯行 26・27・28・30・31号。

旭ノ川から釈迦ヶ岳 108号。

芦生キャンプと中山谷山 360号。

芦生麓採り騒動記 393号。

芦漣瀨川溯行 32・34号。
芦見谷よりカケバ峠を経て榎ノ尾 64号
芦屋ロックガーデン 325・358号。
愛宕山 208・235・268・286・
291・299・302・304・316・
324・328・341・354・
津田副部長退職記念 365・自己体力を知
る測定会 376・389・401号。
愛宕山一稲荷山 305号
牛松一大文字 306号。
とさが野 266号。
三角点 356号。
周辺の山 296号。
地藏山・芦見谷溯行 209号。
地藏山周辺 270号。
大文字山 283・284・298・
305・358・365号。
愛宕山一鳥居 340号。
二題 308号。
比良山 311号。
武奈ヶ岳・大文字山 387号。
夜泣峠・滝谷峠・鞍馬山 368号。
竜ヶ岳 138号。
穴沢の頭△1983m 368号。
阿武隈の山旅 391号。
油日岳・高畑山縦走 21号。
油日岳から那須ヶ原山 202・277号。
阿星山 158・400号。
雨飾山(心のこりの山) 327号。
天城山縦走 333号。
天ヶ岳 263号。
天ヶ岳から江文峠(白馬トレ) 359号。
尼ヶ岳と大洞山 128・171号。
天ヶ岳から旧花背峠 86号。
天山と金山 305号。

雨壺山と雪野山 256号
天ヶ森・天ヶ岳 241号。
阿弥陀岳 349号。
雨の芦屋ロックガーデン 297号。
雨の池田山 262号。
雨の金草岳 188号。
雨の北山 184号。
雨にも負けず(渡辺朋子さん退職記念)
雨の中の胴上げ、 ” 385号。
雨も又愉し、朋と瓢と北山歩き 391号。
荒島岳△1523.6m 344号。
荒谷山と市振 411号。
有峰から雲ノ平を経て槍ヶ岳 95号。
アリ山(飯盛山北峰) 369号。
歩こう会 386・411号。
ある単独行 槍北鎌尾根より北穂高滝谷、クラ
ツ尾根、P2フランク連続登攀 167号。
R・Cトレーニング 33号。
粟鹿山 164号。
淡路島の一等三角点の山々 172号。
アワホラ谷頭から大台辻間縦走 63号。
安蔵山 241・310号。
二部一
嗚呼 坪井又三君 130号。
嗚呼 宮後君 今や亡し 361号。
青木湖事故に思ひ 268号。
青葉あらし 152号。
空缶条例制定 341号。
秋山 121号。
秋山大会を終って 206号。
あしあと(京交山岳部報200号記念)200号。
足を地につけて 353号。
芦屋R・C回顧 288号。
芦屋Aコース 142号。
愛宕の傷 313号。

その後 328号。
新しき道を求めて、 41号。
あなたの山の知識は 177号。
あなたは何でやめましたか 404号。
雨・雨・雨 397号。
歩かずに登れる山 120号。
ある滑落 193号。
あるガイトの手記(佐伯富男著) 185号。
歩く癖 113号。
歩く楽しさ 181号。
歩けなくなったスキーヤー 340号。
歩ける自信と楽しさ 259号。
アル中患者 165号。
ある日あるところで 110号。
アルプスに賭けて(長野県警山岳救助隊編)
233号。
アルプスの日本人 214号。
ある山男の自画像(藤木九三著) 220号。
ある山小屋 171号。
アンケート(部員の声) 19号。
アンケート報告(夏山大会の反省) 59号。
安全登山とは 402号。
安全なスキーのために 219号。
安全牌を放れ 106号。
安全学への道(川端隆章著) 234号。
案内状異聞 312号。

い

飯盛(森)山 222号。
飯盛山(生野) 279号。
魚谷山 234号。
不行岳北東壁 385号。
伊賀谷右又から八丁平、峰床山 206号。
池ノ木屋山 22・60・84・409号。
磯砂(足占)山 200・308・339号。
石仏峠とは 87号。

石仏峠 87・120・134・164・399号。

石仏峠・大文字山・夜泣峠・薬王坂・江文峠・愛宕山 372号。

石堂ヶ岡△680.5m 245号。

石堂ヶ岡から明ヶ田尾山 149号。

石津御岳と田代越 364号。

石槌山 239・356号。

伊勢 国見山 218号。

板並岳 248号。

依遅ヶ尾山 315号。

依遅ヶ尾山と角突山から成相山 272号。

一月の木曾駒ヶ岳 126号。

一月の山行(大文字山と愛宕山) 401号。

イチゴ谷山 327号。

伊豆 天城山縦走 270号。

伊藤新道 178号。

一等三角点の山(一乗山・タンボ・城ヶ森山)

175号。生石ヶ峰・尾張本官山・陣ヶ峰

186号。千丈寺山・烏帽子山△548.8m

烏ヶ岳・真妻山・峰の山・横山 161号。

一等三角点の山々調査行 249号。

一等だった「教賀」△537.5m 162号。

和泉山脈の一等三角点 185号。

和泉 三峰山 247号。

石徹白高原(大日岳・小白山・野伏山) 55号。

伊那佐山 257・259号。

稲村ヶ岳 104号。

稲村ヶ岳・大日岳・山上ヶ岳 297号。

犬石と天狗岩 388号。

犬ヶ丈山 353号。

犬鳴山から和泉葛城山 245号。

犬伏山 208号。

井ノ口谷頭と△779.1m西丁子 315号。

猪ノ背山 223号。

猪ノ鼻岳 364号。

伊吹山—11・56・61・75・97・177
・269号。

スキー 18号。

雪上訓練 342号。

夜間登山 372号。

冬山トレーニング 389号。

北尾根(積雪期) 102号。

東尾根 105号。

伊吹山・富士山・愛宕山・大文字山 371号。

居母山と五森(いつもり) 357号。

イワゴモリ 253号。

イワゴモリと宮ノ尾山 298号。

岩茸山上のひととき 306号。

岩手の山々 408号。

岩手と会津・上州の山旅 410号。

岩出山 54号。

岩戸山と太郎坊・石塔寺を巡る石仏ハイキング
356号。

岩湧山 244・277号。

岩湧山より紀見峠への単人旅 37号。

二部一

有料救助隊 151号。

碑(いしぶみ) 409号。

異常寒波 293号。

一年の計 87号。

1・6年部員 188号。

一本足のタタラ(山と伝説) 224号。

いつかある日(詩) 92号。

犬も歩けば 175号。

井之丸喜久蔵氏の死を悼む 320号。

今西錦司一先生から 237号。

博士の900山登頂祝賀会 294号。

先生の1,300山登頂を祝い 314号。

氏の1,300山登頂の偉業を讃う 356号。

岩と雪 第9号 177号。

岩登りとグレート 191号。

岩登りに思ひ 193号。

岩登りの装備について 362号。

岩の呼孔声(藤木九三著) 176号。

意欲沮喪 294号。

うー

ウエ谷と武奈ヶ岳 22号。

上谷(ウエンダニ)山 230号。

牛尾山と醍醐山 233号。

牛尾観音から音羽山へ 274号。

兎岳から聖岳へ 275号。

牛草山 245号。

牛滝山から紀泉高原 302号。

良山、伊藤・中村両名誉部員還暦お祝い登山
254号。

良山登山にお供して、奥村・河村両氏送別記念
348号。

牛松山、畑氏退職記念登山 255号。

牛松山新春登山 288号。

牛廻山未登記 256号。

牛廻山・果無山脈より 398号。

後立山縦走 215号。

後山695.2mと奥山675.1m 358号。

歌垣山 233・300号。

ウソ峠・赤谷下降 165号。

美ヶ原高原 71号。

東ノ川溯行 109号。

東ノ川中滝右壁と千石尾根 122号。

姥ヶ岳 288号。

馬谷山(ホサビ)畑照人氏還暦お祝い登山
304号。

馬見山、十二支会午歳例会 305号。

梅ノ木谷 105号。

裏六甲東部、百丈岩 369号。

裏六甲、不動岩 372号。

瓜生山附近 382号。

牛尾キャンプ場—千頭岳 納山祭412号。

二部一

兎の登り坂 267号。

歌を忘れたカナリヤ 114号。

内の習は外に出る 288号。

うつしに登る 128号。

え一

江笠山△727.8m 394号。

江笠山と荒神山 303号。

S・KVALLEY 148号。

愛知川溯行 132・134号。

越後の一等三角点の山々、黒姫山、鉢ヶ岳・
米山 267号。

越後の山旅、日本国、摩耶山 394号。

越美国境スキーツアー 366号。

越前岳 269号。

越前、高倉谷を訪ねて 117号。

越前の山々 404号。

恵那山 162号。

恵那山と三界山 176号。

烏帽子山△512.5m 311号。

烏帽子・野口五郎・三俣蓮華・檜 71号。

烏帽子山、三周ヶ岳 128号。

烏帽子山、コプロ(夫婦岩) 397号。

猿神山完登 341号。

二部一

エコノミックアニマル 247号。

エベレスト大滑降(文芸春秋1970JULY
緊急増刊) 213号。

エベレスト登頂(毎日グラフ増刊) 214号。

エベレスト登頂に関連して、 213号。

エベレスト二題・ヒラリー卿 215号。

お一

御池岳 253・386号。

御池岳から藤原岳 182号。

生石高原 84号。

大雨見山 177号。

大岩山 350号。

大江山—2・150・(初日の出208)号。

縦走 89号。

スキーツアー 124・221号。

楽しい親子登山 176号。

と赤石岳 213号。

大屋山(童髯山)・愛宕山 312号。

大笠山・笈岳・奈良岳 180号。

仰木峠・童髯山・伊吹山・富士山・愛宕山千日
詣 384号。

扇ノ山 200・211号。スキーツアー
366号。

お亀池 340号。

岡山県の一等三角点の山 257号。

岡山県の山々、飯ヶ山・扇山・不溜山・乗幸山
404号。

隠岐の山・大満寺山I△607m 191号。

奥伊吹スキーツアー 402号。

奥越 法恩寺山スキー登山 378号。

奥香肌峽 39号。

奥上林の山々—△581.8m・△579.3m
329号。 頭巾山と△505.9m 325
号。 △573mと君尾山△581.8m
331号。

奥玉谷 133・168号。

奥ノ迫山△702.2m 305号。

奥ノ谷山△811m 338号。

奥ノ平谷 96・103号。

奥ノ深谷 14・188号。

奥穂高岳 369号。

奥マキノスキーツアー 378号。

奥又白から穂高(夏山合宿) 251号。
奥美濃孤独のワングル 117号。
奥美濃の休日 201号。
大倉Ⅱ△826.3m 334号。
大栗峠△681.9mと古田△675.3m(とっておきの北山) 362号。
オグロ坂 339号。
尾ヶ平 296号。
オサンババ 357号。
小塩東谷尻村八丁 265号。
小塩山からボンボン山へ 349号。
OG・コジキ・オチロ 71号。
大白木山 325号。
大蛇峰 293号。
押立山(三千峠) 東光寺山(コバンバ) 明神山 272号。
お正月の山、牛尾観音・千頭岳・陀羅谷石山 364号。
小鳥山と池田山 368号。
尾瀬-129号。
至仏登山二篇 371号。
燧ヶ岳 385・再び408号。
と上州の山旅 274・275号。
小関越 343号。
大棚入山と辰ヶ峰 285号。
大台ヶ原山-101(冬期)。
三之公谷経由 285号。
キャンプに参加して、357号。
大杉谷 47・84・182・260号
尾鷲道 205号。
大長山・赤兎山登頂記 397号。
落合-岩場トレーニングに参加して 361・362号。
第二回基礎技術講習 362号。
小津権現山 280号。

大月地獄谷 300号。
大塔山 200号。
大野ヶ原源氏ヶ駄場(蘇野峰)△1403m 378号。
音羽山△851.7mから竜門岳△904.3m 381号。
鬼ヶ岳 325号。
小野郷から朝日峰、松尾峠、田尻峠 81号。
小野郷、鷹ノ巣山・朝日峰・峰山 350号。
小野割岳 326・410号。
大原、鞍馬、貴船 267号。
オバタケダンノ頭△729m 346号。
大船山と羽東山 245号。
大洞山(とっておきの三角点) 369号。
大御影山 213・407号。
近江坂 264号。
近江路57kmを歩く 363号。
大峯山-34・201・370・405号。
縦走 95号。
奥駈 225号。
弥山川溯行 164号。
山系を一周してしまった。 409号。
大峰山Ⅱ△506m・鷲峰山Ⅰ△681m・太神山Ⅰ△600m、344号。
表銀座縦走 82・85号。
表銀座から檜ヶ岳 132号。
表六甲 壘壘岩 381号。
親不知△604.6m 310・398号。
大野山 235号。
越山 236・242・333号。
越山と能郷白山 387号。
搦指岳 104号・303号。
搦指岳R・Cと星ヶ城山Ⅰ△817m 338・375号。
大万木山・琴引山・女亀山 387号

御嶽山ー148・230・234・264局内
大会・359号

偵察行 112号。

冬山合宿 113号。

残雪 116号。

集中登山 157号。

御岳さんから 111号。

初登頂記他、 411号。

地獄谷・赤川谷 191・240号。

二部一

狼はいるという 115号。

狼、人の死体を狙う 116号。

大きかった台高、大峯 311号。

大阪市大隊の遭難を悼む 104号。

大台ヶ原山が丸坊主に 191号。

大野・池田両郡地図 344・346～
349号。

近江の山々(伏木貞三著) 212号。

大宮神社の沿革 223号。

岡田君、トップ入選 105号

奥美濃二昔、選ってきた岳友 357号。

奥村先生、ヨーロッパ絵画の旅 112号。

奥村厚一先生欧州からご帰国 118号。

奥村厚一先生の死を悼む 262号。

納め参り 388号。

おちこちの雪(竹節作太著) 232号。

斧をとぎて針にする 201号。

想い起す、50年前 333号。

思い出の大雪 132号。

オリエンテーリング入門 230号。

” について 396・398
号。

追われるスキー競技場 125号。

追われるスキーヤー 263号。

恩師を偲ぶ 森本次男氏 159号。

御岳さんの噴火 326号。

隠忍自重 352号。

以上が、あ行、である。それぞれ著者たちが、その折々の詩情による、つまり季節・天候・国名を冠した稿名が多い。この豊かな情緒を尊重して、向後もほゞ忠実に、この方式で配列を続行するつもりである。

ただ 登りたい山名が必要とか、偲ぶべき故人の尊名を求めたいなどは、不便があるかも知れない。念のため、各位におかれてご考慮あらんことを願っておきます。

1987.4.9

例会報告

例会係	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1618	吼子尾山 高砂峰	(変更) 4月12日		伊藤 潤治		(別稿詳報)

1626	コド石	(変更) 5月19日		伊藤 潤治	大倉、吉田	登りました。
1634	縫ヶ原山	4月 7日 ～8日		吉田 武	大倉寛治郎 伊藤 潤治 森本 清一 (他1名)	(別稿詳報)
1635	赤ノ頭と 大蔵山	(変更) 4月14日 ～15日		伊藤 潤治		(別稿詳報)
1636	越前甲～ 大日山	4月18日 ～19日		大槻 雅弘	大槻 貞從 津田、古市 和田、三橋 原田、方山	(別稿詳報)
1637	(延期) 観音峰山	4月19日		伊藤 潤治		
1638	関ヶ原～ 柏原	4月26日	雨	井上 一夫	津田 実 横井 襄二 楠 とし子 大杉 雅晴 川原 傳治 (その他 24名)	(別稿詳報)
1639	唐木岳 道斉山	(変更) 4月27日		伊藤 潤治	(N氏、 K氏)	(別稿詳報)
1640	ヒノキ 旭山	4月29日		伊藤 潤治	(N氏、 K氏)	(別稿詳報)
1641	黒岳 大菩薩嶺	5月 3日 ～5日		吉田 武	津田、大倉 原田、方山 奥村、今井 (津田夫人、大倉夫人、 吉田康一)	(別稿詳報)
1642	(変更) 奥美濃 天狗山 不動山 千回沢山	5月 4日 ～5日	晴	大槻 雅弘	岡田 茂久 三橋 勉	越前甲から大日山へ登った時 今回の大笠山・笈ヶ岳例会は 雪不足の為、無理と判断し、 以前から計画ばかりで実行出 来なかった山を、念願かなっ て登ることが出来た。 (次号報告)

部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
比良山縦走	4月24日 ～25日		上田 嘉夫 (広沢、 久保田、 野端、田中)	京交山岳部の皆さん初めまして、今年4月に入部しました上田です。この度、比良縦走に挑戦しました。 (別稿詳報)

雑 報

▲5月の集会

7日 場所 厚生会館 4F

出席者 本局 大槻雅弘、三橋、大木、方山、古市、井戸、井上
 高速 岡田、大倉 梅津 吉田 九条 和田
 OB 伊藤

以上 12名

- インドア 「国体山岳競技とは (2)」 岡田茂久
- 例会報告、例会予定、その他

▲他山岳会の会報(受贈分)

4月号 青嶺
 5月号 北山、近畿山行、木雞、山友、趣味の登山、京都山岳、比良山岳
 その他 『友好の山(京都府・陝西省太白山合同登山隊1986)』
 わっぱ 55、56、59

▲びわ湖バレイ森林浴高原ハイキング大会

第2回	6月 7日(日)	ジャカ岳・涼峠コース	約 6 Km
第3回	7月 5日(日)	南・北比良峠縦走コース	約 7 Km
第4回	8月 30日(日)	八瀬滝群、オガサカ道コース	約 6 Km
第5回	9月 20日(日)	蓬萊山・小女郎谷コース	約 5 Km
第6回	10月 18日(日)	アウキ峠～ホッケ・蓬萊コース	約6.5Km
第7回	11月 1日(日)	夫婦滝・白滝谷コース	約7.5Km

問い合わせ 事務局(株) びわ湖バレイ本社

520-05 滋賀県滋賀郡志賀町木戸 1547-1 TEL 0775-92-1155

主催 京都新聞社・(株)びわ湖バレイ 後援 京都府山岳連盟・滋賀県山岳連盟

帆 布 ・ 瀟 布
テント ・ シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801 5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区白幡町西友ストア4F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストア-山科店
TEL (592)9770 内線 228

営業時間 一年中、山用品だけの
プロショップ

午前10～午後1時と午後3時～午後8時
(午後1時～3時は閉店させていただきます)

<定休日> 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ
ログケビン



京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四条河原町・阪急河
原町より徒歩4分)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

あらゆる地図のご用命は

株式会社
小林地図専門店

600 京都市下京区烏丸通六条下ル
TEL 075(351)6598(代)

地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m
市バス：烏丸六条下車

昭和62年6月1日

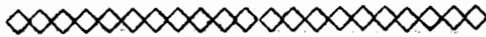
京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内
京交山岳部

HIKE & CAMP

この用貝の手ならコニシが一番です!
御来店ありがとうございます
山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の

中・二条通河原町西 TEL 231-1202



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い一時立退きと相成りました
改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします



移転先 本店2階

京都市中京区西ノ京円町 24

ダイヤ運動用品株式会社



HORIKI

まかせて下さい…ネ



山とスキー

KYOTO

☆在庫豊富にとり揃えています。
☆山の道具は セヒ 御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグホリック

河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚礼
御引越



専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075)581-3101

本社

東山区大和大路四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

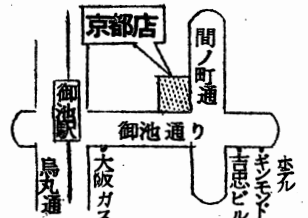
場所も変わって、アウトドア&スキー専門店
広くオシャレに。

ロッジ・京都店 4月18日(土) 移転オープン

京都市中京区御池通高倉西入高宮町200番地

TEL 075 255-0595

京都市地下鉄「御池」駅
より徒歩 約5分



- 梅田日生ビル店 大阪市北区堂山町 3番 3号 TEL 06(315)7757
- 大阪駅前第4ビル店 1F スキー店 大阪市北区梅田1丁目5番地 TEL 06(341)5444
- 2F 登山店 大阪市北区梅田1丁目5番地 TEL 06(341)5378
- みなみ店 大阪市西區北堀江1丁目3番7号別施ビル1F TEL 06(532)7801
- 京都店 京都市中京区御池通高倉西入高宮町200番地 TEL 075(255)0595
- 高岡 ヨーデル 富山県高岡市戸出3丁目 2036 TEL 0766(63)6360